

2024.3.26 PF SAXS-UG ミーティング

2024.3.26 17:50-

議題

1. PF側より（概況報告、清水先生挨拶）

2. UG（幹事会より）

＜審＞ UG代表の交替について.

＜報＞ PF-UA(7/31)概要報告 他

対面+Zoom会議

3. その他

ちなみに2024年度RI手続きは本日から可能(のはず)

現PF SAXS-UG 幹事

• 現幹事

代表 奥田浩司(京大工) 金属・無機

副代表 上久保裕生(奈良先端大) 生命・生物

山本勝宏(名工大) 高分子

幹事 菱田真史(筑波大)脂質

小川紘樹(京大化研)高分子

小田隆(立教大)生命・生物

井上倫太郎(京大複合研)生命生物

石毛亮平(東工大)高分子

森田剛(千葉大)ソフトマター

櫻井伸一(KIT) 高分子、前代表

[顧問] 平井光博先生(群馬大) 櫻井伸一先生

(KIT)

2. UG代表の交替について（審議事項）

- 新代表の望ましい条件
 - PF-UAとのチャネルやUAの仕事の経験
 - PFのユーザー
 - 関連分野のPFSAXSユーザの顔が見えている方
 - UG代表をお引き受けいただける方

候補を3月のUGMeetingで提案。

代表: 山本先生(名工大)

- 関連事項

副代表(生物; 上久保先生、高分子; 石毛先生、その他(森田先生)についてご本人承諾、幹事会合意)

幹事について

→ 幹事補充(1月中旬くらいまでにメール推薦・審議)

** 2024.3.26 SAXSUGのUG会議後の幹事会で承認(会則手続き上必要)、決定**

3.PF研究会について(2023秋時点)

*今回決めるべきこと

- i) 依頼講演の詳細→旅費支給なしの条件で打診。難色示すようならRemoteに言及。推薦された全員に打診。
- ii) 一般講演(口頭/ポスター)、(ポスター容量確認)
- iii) 旅費支給原則(前回と同じでよいか。→了解)
- iv) Onlineを認めるか→依頼講演の取引材料としてのみ。

<スケジュール概要>

一般講演・参加募集(HP)1月中旬 依頼;高木先生よりPFへ
発表申し込み締切 2/2

要旨締切 2/中旬

WEB参加申し込み締め切り ~3/1

研究会 3/26.27

• 関連資料

1) 研究会申請書

2) PFNews案内原稿

3) 現状プログラム案、日程案、依頼講演

3-1) PF研究会提案内容 (2023年5月)

- PF研究会 「物質・生命研究における小角散乱法の展開:現状と展望のための討論会」

Extended / advanced use of SAXS method in materials science and biology

時期:リング運転日程より決定(12月中～下旬希望)

- 2.提案内容:

- SAXSはナノスケールの構造を知るための汎用ツールとして、生物高分子から無機材料まで、広汎な研究分野を含みます。分野が広汎なため、その成果やアイデアは異なる学会で発表されることから、異分野からの刺激が新規な研究展開の触媒となる機会が少ないことが課題です。今回対面での研究会開催が容易になった機会をとらえ、小角散乱UG参加者を中心に対面で討論する研究会の開催を提案します。

- 本研究会では、散乱測定を研究手法として使う広い分野のユーザーを対象に、コロナ以降を含むそれぞれの分野での発展や関心事をもちより、議論の時間を多くとることによって活発な交流の機会としたいと考えます。個別の分野で見いだされたことや関心を持たれていること、課題となっている点をキーワードとして提示するような発表を募集し、新たな共同研究あるいは他分野の手法に触発された研究の端緒となることを目指します。分野特有の知りたいことを縦系に、実験あるいは解析手法を横系にして、現状の共有にととまらず、2ビーム計測などの横断的な将来展望にも資することを目指します。

- 3. 提案者:SAXSUG幹事会

- 奥田浩司(京都大・教授) 上久保裕生(奈良先端科学技術大学院大・教授) 山本勝宏(名古屋工大・准教授) 菱田真史(東京理科大・准教授) 小川紘樹(京都大・准教授) 小田隆(Jparc) 井上倫太郎(京都大・准教授) 石毛亮平(東工大・准教授) 森田剛(千葉大・准教授) 櫻井伸一(京都工繊大・教授)

- 世話人:高木秀彰、清水伸隆、五十嵐教之

3-2)

PF研究会「物質・生命研究における小角散乱法の展開：現状と展望のための討論会」開催のお知らせ

PF研究会「物質・生命研究における小角散乱法の展開：現状と展望のための討論会」開催のお知らせ

放射光実験施設 高木秀彰、清水伸隆、五十嵐教之

小角散乱法はナノ～サブマイクロメートルサイズの構造体を評価するのに適した手法であり、様々な研究分野で利用されている。例えば、ポリマー、液晶、コロイドなどのソフトマテリアルや金属・無機材料のハードマテリアルといった物質科学や、タンパク質などの生命科学など多岐に渡る分野の研究者が使用している。PFの小角散乱ビームラインでは最先端の実験ができるツールを、よりユーザーフレンドリーな環境で使えるよう整備しており、装置としても日々ブラッシュアップしている。またPFでは、2ビーム利用が可能な開発研究多機能ビームラインの建設も進み、従来の小角散乱手法にとらわれない新しい利用方法の検討も進んでいる。そこで本研究会では、小角散乱法の発展的研究の可能性を探ることで、より先進的な放射光利用による小角散乱研究の今後の展望について議論したい。

<開催概要>

会期：2024年3月26(火)～27日(水)

開錠：4号館1階セミナーホール

PFNews記載

UGミーティングについて

- 開催時期・場所（研究会初日懇親会前）→承認
- 議論内容
 - 代表交代など（承認要）
 - UG規程等に関して（変更内容があれば）
（承認要）
- 報告内容
 - PF側
 - User側

令和5年度 第1回PF-UA幹事会・運営委員会 議事録

文案:阿部(庶務)

日時:令和5年7月31日(月) 16:00-18:00

場所:リモート開催(Zoom会議)

・【報告事項】

- ・施設報告(船守 施設長)
- ・PF施設報告, PF将来計画について報告した。
- ・会計報告(佐藤 幹事)
- ・2022年度の会計報告を行った。また, 2023年度の予算案について確認した。
- ・行事委員会報告(藤井 幹事, 北島 幹事)
- ・2023年度QBSFおよびJSR2024の準備状況について報告した。
- ・推薦・選挙管理委員会報告(山崎 幹事)
- ・今年度に実施予定の次期運営委員会選挙について確認した。

・【協議事項】

- ・PF-UA学生論文賞について(阿部 庶務幹事)
- ・今年度分のPF-UA学生論文賞について, 募集要項の改訂案を協議した。
- ・第1回 PF-UA サマースクールについて(吉田 教育担当幹事)
- ・9月19日にリモート開催される第1回 PF-UA サマースクール「放射光分析手法の初学者向け勉強会」について周知した。

→ 石毛先生 ありがとうございます。

UGの更新申請(2021提出、2022承認)→次回2026

- SAXS-UG 活動報告書、更新申請書提出(2021年)
- 各分野での成果などのご協力により十分な分量の提出となりました。有難うございました。
- コロナの関係で活動実績(研究会)を今後どのように進めていくかが課題。現状では無条件の対面はまだ時期尚早か。
- 継続の目的:

小角散乱はグループの結成から2017年度の継続を経て2回目の継続の時期を迎えようとしているが、生物関連分野、高分子・ソフトマター関連分野、無機・ハードマター関連分野において、コロナの影響を受けながらもユーザー数の高止まりとともに新規参入研究者が定常的に加わるなど、活発な状況が継続している。PFスタッフのご努力による高水準の実験技術へのアクセス性の向上と3本のビームラインのそれぞれの特性を生かした新たな課題申請への誘導などが相まって現在3本のビームラインが安定して運営されている。このような環境下で多岐にわたる分野のユーザーが情報の共有と連携を強化することの重要性は小角散乱法の測定・解析手法の観点からの活性化のみならず、個別分野へのフィードバックによる更なる発展という観点からも増している。このような現状に鑑み、小角散乱ユーザーグループの継続を申請する。

継続申請書の内容： 修正、追加など

- 今後の主な活動予定内容：
- (1) グループ内の異分野・隣接分野間での研究内容の理解促進のための活動： 下記の幹事分野にも表れているように、小角散乱ユーザーは多くの分野にまたがっており、対象物質・現象の多彩さから、個々の研究分野・手法の意義や内容・背景を理解する機会と場を提供する活動は重要である。このため、PF研究会を中心に異分野で小角散乱からどのような情報が導かれているか、どのような実験的アプローチが考えられているかを対面での議論をおこなえる機会を積極的に設ける。
- (2) PFでの小角散乱測定の高度化、高効率化への協力
→ Two-beamの活用法 ？
- (3) ユーザービームタイムにおける実験の計画・遂行の合理化・効率化、利便性促進：

その他